

【学校教育目標】 豊かな心を持ち、夢の実現に向かって自律的に活動する久里の子の育成

～ 元気・笑顔・思いやりがあふれる学校 ～



久里の子

唐津市立久里小学校

学校便り No. 9

令和6年10月30日

文責： 宮本 克一

運動会の参観ありがとうございました！

台風並みの強風が吹き、開催することを心配した令和6年度の久里小運動会ですが、大きな事故もなく無事に実施できました。ここ数年の猛暑により、子どもたちの熱中症が心配されるため、秋の運動会としました。10月になって暑いとはいえ、少し和らいできて、子どもたちの熱中症も心配することなく練習することができました。さらに今年度は、午後からは久里地区運動会が行われました。コロナ禍を経て学校を取り巻く社会状況は大きく変わってきています。その中で学校の運動会と久里地区運動会の在り方についても関係機関と協議を重ねながらより良いものを探していくことになるかと思っています。

さて、今年のスローガン「最後まで全力で思い出になる運動会～勝っても負けても最高の笑顔になる」のもと、子どもたちは練習の成果をいかに発揮し、たくさんの笑顔を見せ、どの子どもも存分に楽しめたのではないのでしょうか。今年の運動会は白組が優勝しましたが、惜しくも敗れた赤組も敗れて悔いなし。精一杯頑張ったという満足感が子どもたちの表情として表れていました。また、応援合戦では甲乙つけがたい素晴らしい応援を見せてくれました。競技中には、転んだ子どもがすぐに立ち上がり、走り出す姿や6年生を中心に他の学年の子どもを応援する様子など心温まる久里の子の姿をたくさん見ることができました。本当に素晴らしい運動会になりました。これも、早朝よりご来校いただき、最後まで熱い声援を送っていただいた保護者や地域の皆様のおかげだと心より感謝申し上げます。この場をおかりしてお礼申し上げます。ありがとうございました。

子どもたちがこの運動会を通して身に付けた力を更に伸ばしていけるよう、職員一同力を合わせて今後も頑張っていきたいと思っています



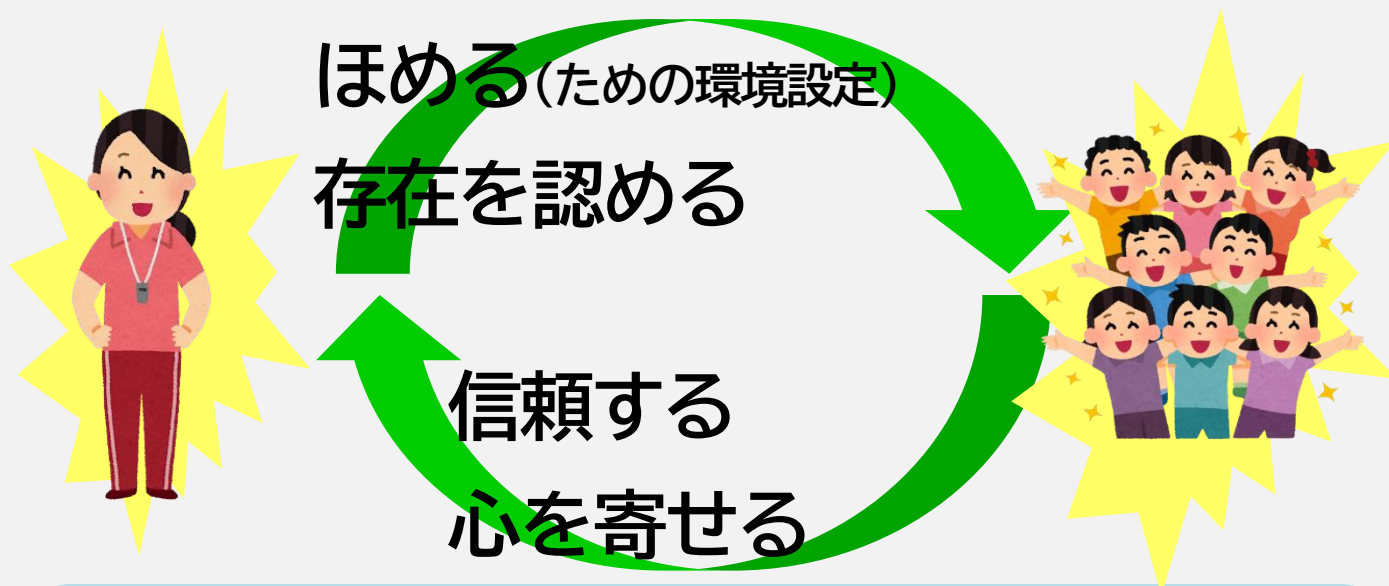
実りの秋・・5年生がお米を収穫！

今年も地域の岩田辰夫さんのご協力（水田の借用、田植え・稲刈りの指導、田植えから稲刈りまでの管理等）のお陰でたくさんのお米を収穫することができました。稲刈りは子どもたちが鎌を使って刈り取りました。



「学校全体で取り組むポジティブ行動支援」(SWPBS) Vol.6

⇒ポジティブな行動支援を続けて、「プラスのサイクル」の先には・・・



安心感があり 居心地のよい学校・教室

【ちょっと一息②・・・】

今年、佐賀県では「SAGA2024 国スポ・全障スポ」が行われましたね。28日（月）に全障スポの閉会式が行われ、全日程が終了したことが新聞などで報道されていました。さて、皆さんはこの「SAGA2024 国スポ・全障スポ」を観戦したり、またはボランティアや役員として関わりをもったりされましたか？私は、唐津で行われた競技をいくつか観戦しました。その中で、たくさんの感動的な場面を目にしましたが、その中でも全障スポでの選手同士の「ハイタッチ」する姿や失敗した後の仲間からの「ドンマイ！」「大丈夫！大丈夫！次！次！」という掛け声を聞きながら、その背景にある様々なハンディキャップや葛藤、苦悩を勝手に想像し、勇気をもったということがありました。久里小の3・4年生はヨット競技の観戦に行きました。出艇する選手に大きな声で応援している子どもたちをみながら、こういうチャンスに恵まれた子どもたちの心の中に何か記憶に残るものがあればいいなと思ったものでした。人間は綺麗とか、嬉しいとか、すごいとか・・・「感動する」という心を動かされる経験をたくさん積み重ねればほど豊かな感性を育みやすくなり、心が豊かな人になると言われています。今回の「SAGA2024 国スポ・全障スポ」を通して子どもたちが「感動した」という経験を一つでもできていれば嬉しいなと思います。

